



障がい者虐待

障がい者に対する虐待は、以前から問題として取り上げられていますが、直接かかわらない人たちにとっては実態を知り得ることではないと思います。先日、私たちの施設でも虐待の問題が浮上しました。毎日出勤する真面目で素直な社員（利用者）ですが、風邪で休むとの電話があり、後日出勤した際にもマスクはしているものの、顔は大きくはれ上がりあざになっています。どうしたのか質問をしても転んだとか、ぶつけたとの答えしか返答はなく、私たちも困っていました。当日の作業を終えた本人に誰にも言わないから本当のことを教えてくれとの問いかけに、今度はつらそうな表情で話してくれました。「友達に殴られている」なんで殴られるの？「僕が嘘をつくから」「お金を借りていて返せないから」「呼び出されて車に乗せられ山に連れて行かれ殴られる」など辛くて怖かった経験を話してくれました。早速、当日のうちに市役所や警察と連携をとり、今日呼び出されたら施設に連絡をすることを約束させ、翌日朝には病院にて診断書をもらい、午後には本格的な事情聴取を始めました。聴取によると、加害者は車の車検を受けるために被害者も自分の車に乗ったことあるからなどお金を要求したり、ことあるごとに恐喝行為を行い、要求が満たされないと暴行するといったような内容でした。近所の方の話では日常的に暴行されていた様子だったとのこと。警察での事情聴取の最中も加害者からは何度も携帯電話に着信があったようです。警察ではこのまま帰すわけにはいかないとこのことで保護できる施設を市役所に要請するよう命じられました。ところが、市役所では保護する施設の手配はできないとのことで、しまいには「そこまで言うなら施設が責任を持って保護してください」「法律的な言い分で市に対し話をしているのか」「自宅に帰して何かあったら110番するようにしてください」とのこと。県にも問い合わせましたが今回の権限は市にあるとのことでした。ここは声を大きくして言いたいですが、人命にかかわるような事件で非常事態であってもお役所仕事と言われても仕方ない言動だと思います。結果、警察の担当者と市の担当者と直接やり取りをしていたら、市は明日には収容できる施設を手配するということになりました。私たち民間の要請は聞けないということですね。当日の保護の手段は、当施設にてビジネスホテルを手配することを警察から承諾を得ました。

翌日の朝、施設前に不審な車があることを確認した職員はその車の周りを歩き回るといった行動をしました。すると向こうから声をかけてきたそうです。加害者だと思われます。被害者に対し「昨日は出勤していましたか？」「何時ごろ帰宅しましたか？」「今日は何時ごろ出勤しますか？」などの問いかけに対し、職員は「どちらさまでですか？」「念のために連絡先を教えてくださいませんか？」「9時ごろには出勤します。」このやり取りは朝の7時50分ごろから始まりました。「友達です。9時ごろまで車で待っています。」と加害者らしき人物。早速、警察に入電しました。8時30分ごろ警察が到着して身柄を確保していただきました。聞けば聞くほど、悲惨な日常的な暴力、道理が通らない暴言。時には奥さんと子供を連れて被害者の自宅を訪問し、暴力をふるっていたそうです。当施設職員も被害者本人の話聞いて何度も涙が流れる場面があったとのこと。

障がい者虐待を取り巻く問題

今回の事件を通して、障がい者虐待の問題は虐待自体以外に問題が点在していました。一つは虐待を第三者が感じたときにどれだけ早く事実を確認することができるか。確認できたら次に有効な対応をどれだけ早くできるか。今回は被疑者確保までめまぐるしく展開が早く進捗しましたが、1日でも対応が遅れたら命に係わる出来事になっていたかもしれません。もう一つは被害者の保護も問題です。市の言い分が適当と判断してしまっていたら確実に当日新たな被害を負うことになっていました。被疑者は被害者の事情聴取の日の夜に何度も被害者宅を訪問し、手紙を残しています。市の職員が言った通り帰宅させて何かあったら110番しなさいと言う話は適当だったのでしょ。市がそういう判断をしたのであればその対応でいいと思う施設も職員もあるかもしれません。市職員は慎重に今起きている現実を分析して責任ある言動が必要だったと感じます。それと、保護の為に収容する施設の要請をしたのは当日16:00前後でした。翌日ではなく当日に手配はできなかったのでしょうか。保護しなくてはいけないのに収容するところがない。「今日は家に帰ってはだめよ」とだけ伝えるような無責任な対応はその場にいれば絶対できないことです。知的障害等の障がいを持っている障がい者ならば自分たちでは適切な判断も行動もできません。結果、行くところが無ければ帰宅してしまいます。いずれにしましても行政はもっと真剣に職員1人1人が状況に応じた対応を行い、自分で判断できないことは上席に判断をゆだねるべきだと思います。それもスピーディーに！と言う条件付きです。

虐待を問題だとしている団体も関係諸官庁も問題発覚からのシュミレーションを立て直し、具現化して、問題が表面化した後の対処を真剣に考えなければいけません。虐待は問題だというもの解決までは考えていませんと言っているようなものです。今回のように勇気を振り絞ってすべてを告白して、のちに更なる被害にあってしまっている人たちが本当はもっといるのではないかと。最近頻繁に見るニュースでストーカー被害なども数日前に警察に相談して殺人事件になっているのはこういう事なのかと思ってしまう。

私たちは、今回の経験をもとに現実的な視点で障がい者環境の整備に尽力して参ります。

更なる応援の程、宜しくお願い致します。

※報告とお知らせは今月お休みさせていただきます